風流之婦女書

廿八
廿九
三十

ヘ13
2944
10

へ 13
2944
10

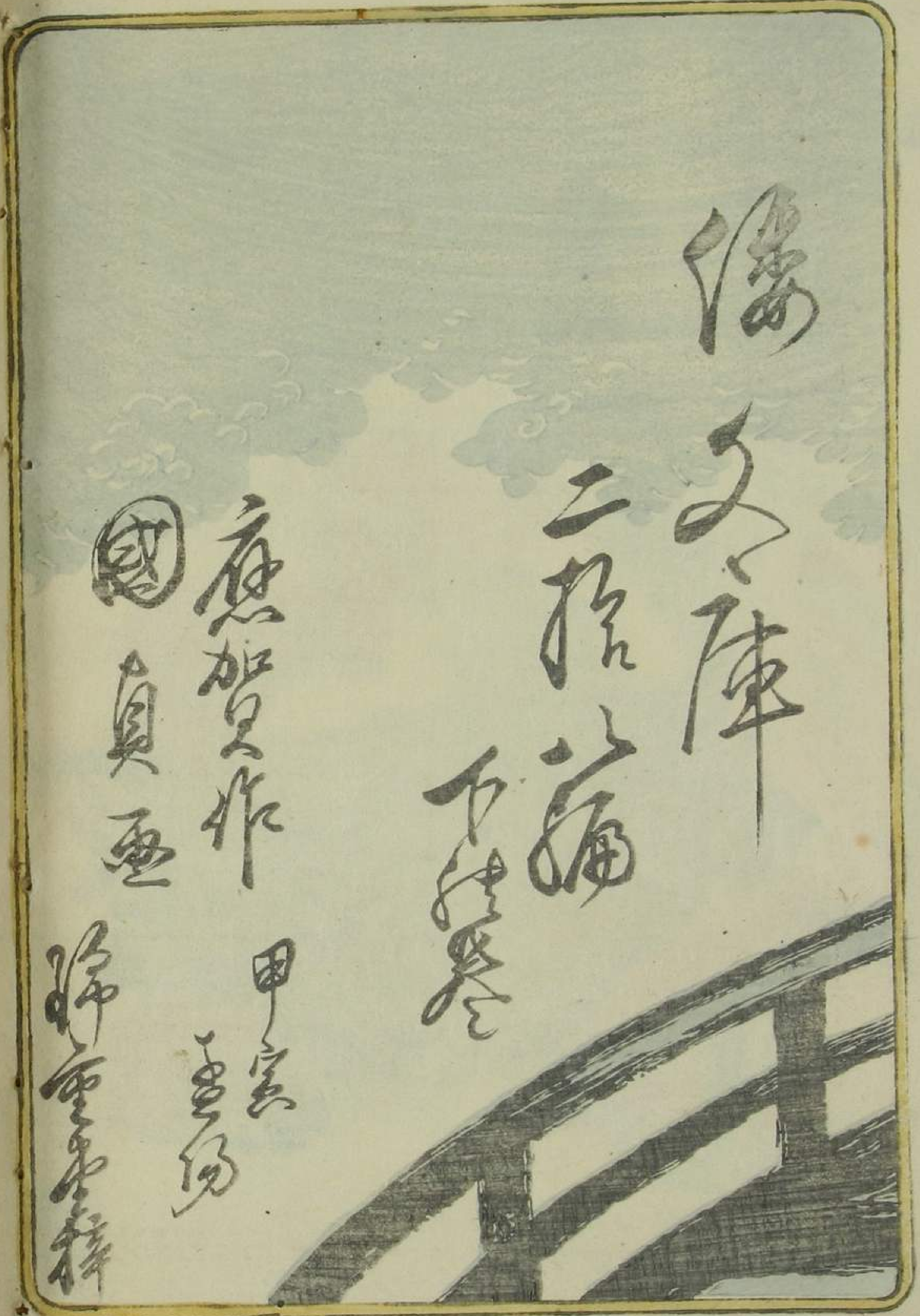
昭和九年
乂月九日
購求

屋満登
婦き志古
二編
いろはん
上の巻
寅の春
狂歌
国貞画
上州屋板

屋満登
文庫
二拾八編
万字垣狂歌
歌川国貞画
鈴垣堂撰
立斎

万亭應賀作
上
外題豊国画

倭文庫二拾八編
二世歌川國貞画
嘉永七年
甲寅春
新版
下
錦重堂版



釋迦八相倭文庫二拾八編叙

夫妄語ハ五戒の一ゝて第一ニ慎むべきとありされども文廣大なる世の寶ともいへざらんや什麼世尊出山ましくて直ニ三界唯一心の道理をもて一切衆生を度せんが為ニ先華嚴を説玉へど聲聞縁覚ハ啞聾の如く所化の根未熟なれバ余義なく方便ニ花を咲せて后ニ法華ニ實せられぬ復武士道ニ謀計あり是ハ噓をもて敵を圖り逆を討て國を治又商人ニ掛直あり此も虚言をもて渡世し妻子を養ひ家を并况畫工の繪噓稗説家の不断の虚言も或ハ活計或ハ又勧善懲悪の一端ならさまバ妄語も善ふよれバ真実言ニ勝る徳あらざるべからず方便を述ると尓云

嘉永七甲寅年正月吉旦　万亭應賀誌

目蓮
目蓮弟の伽陵長者
長者の妻

悋嗇なるが故に大神通力をもて檀施を勧る
安陸沙門酒甕を砕て五戒を示す
安陸
伽陵長者

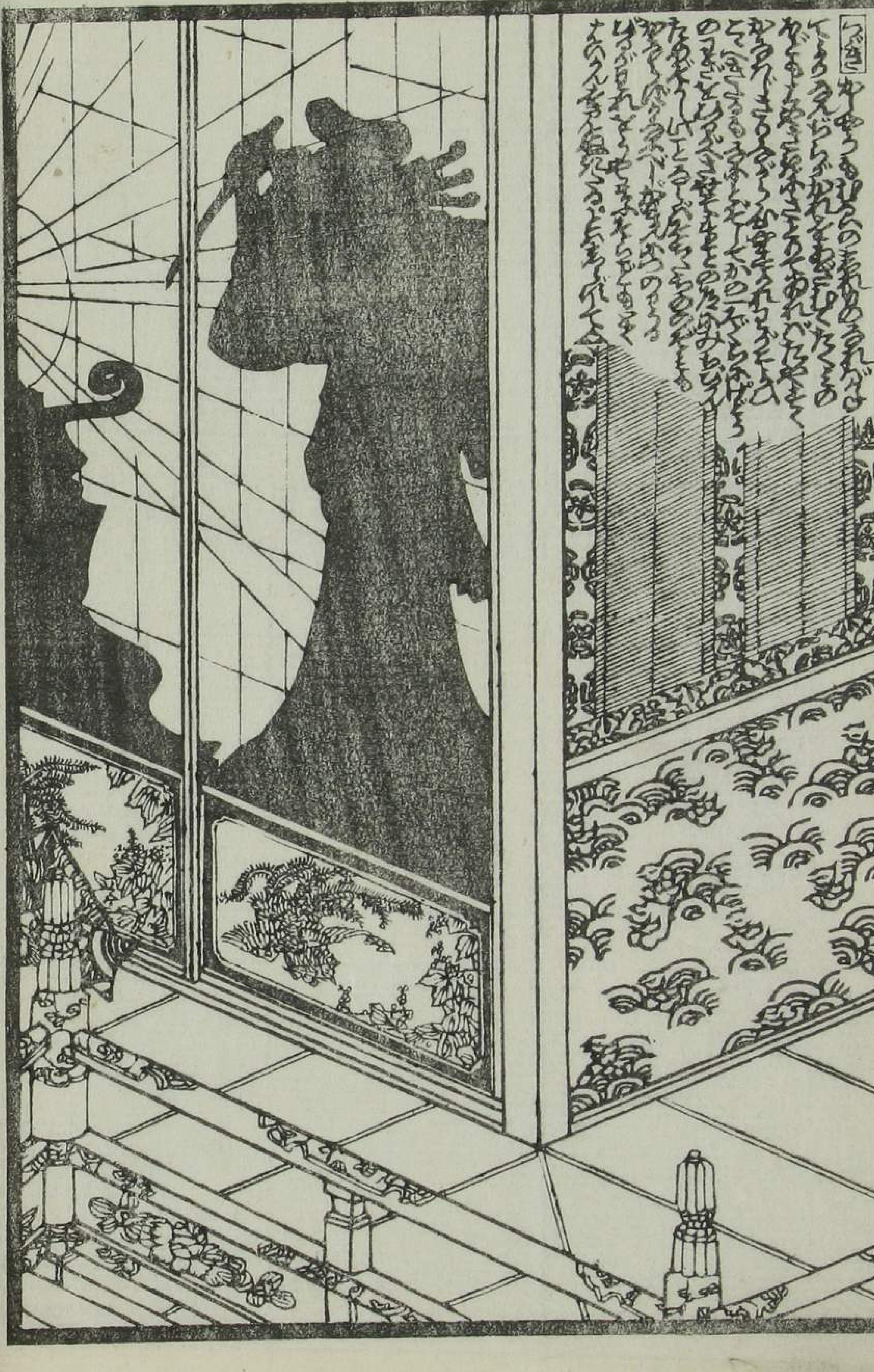
姉宝錦女
如来
二男
那提迦葉
摩謁の國

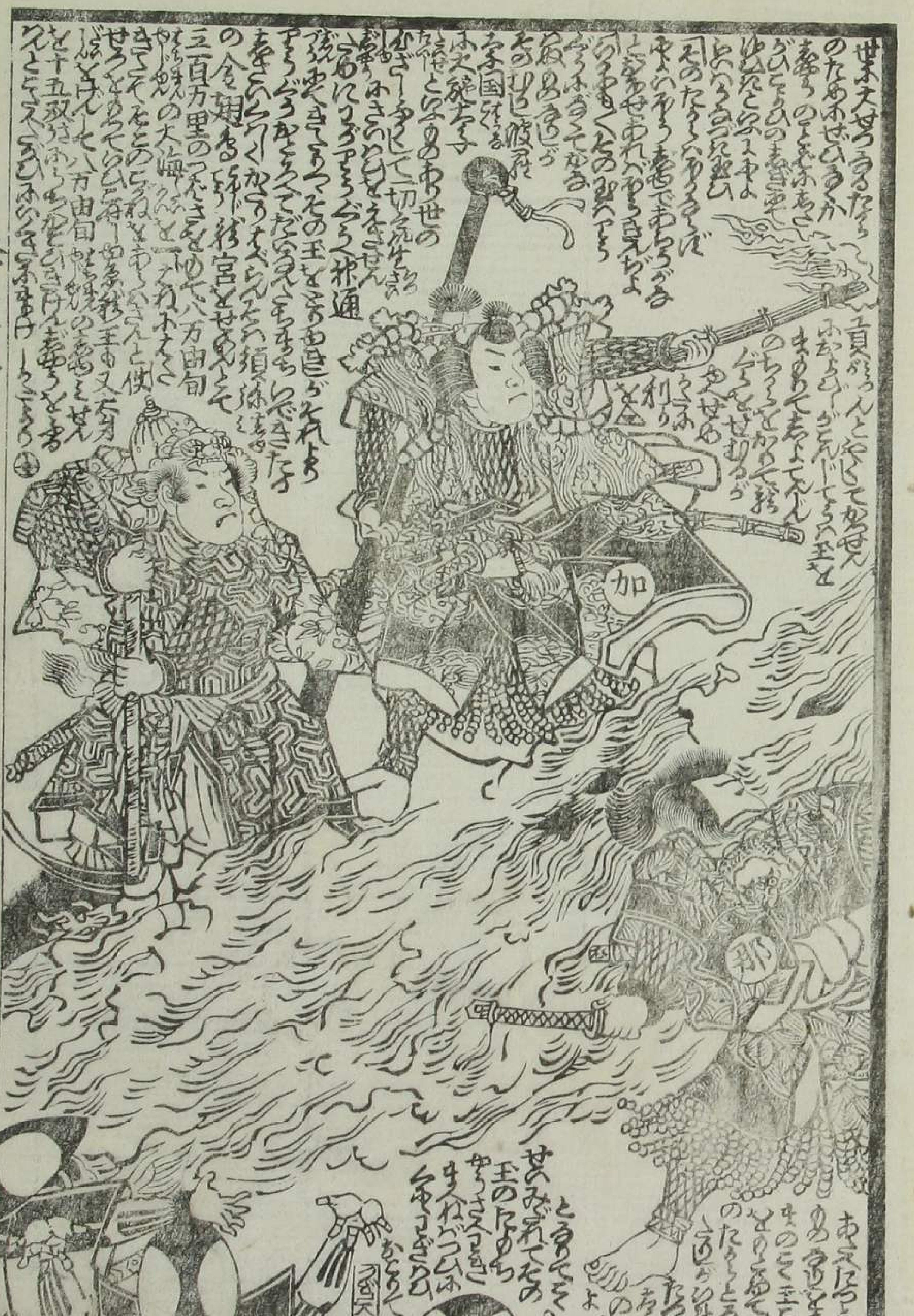
釋迦如来
迦葉の家に宿りて
龍女に袈裟を
授け又三迦葉を度して
法弟につけ給ふ
妹無垢錦女
三男
伽耶迦葉
優樓頻螺迦葉

如
安

無

コレ

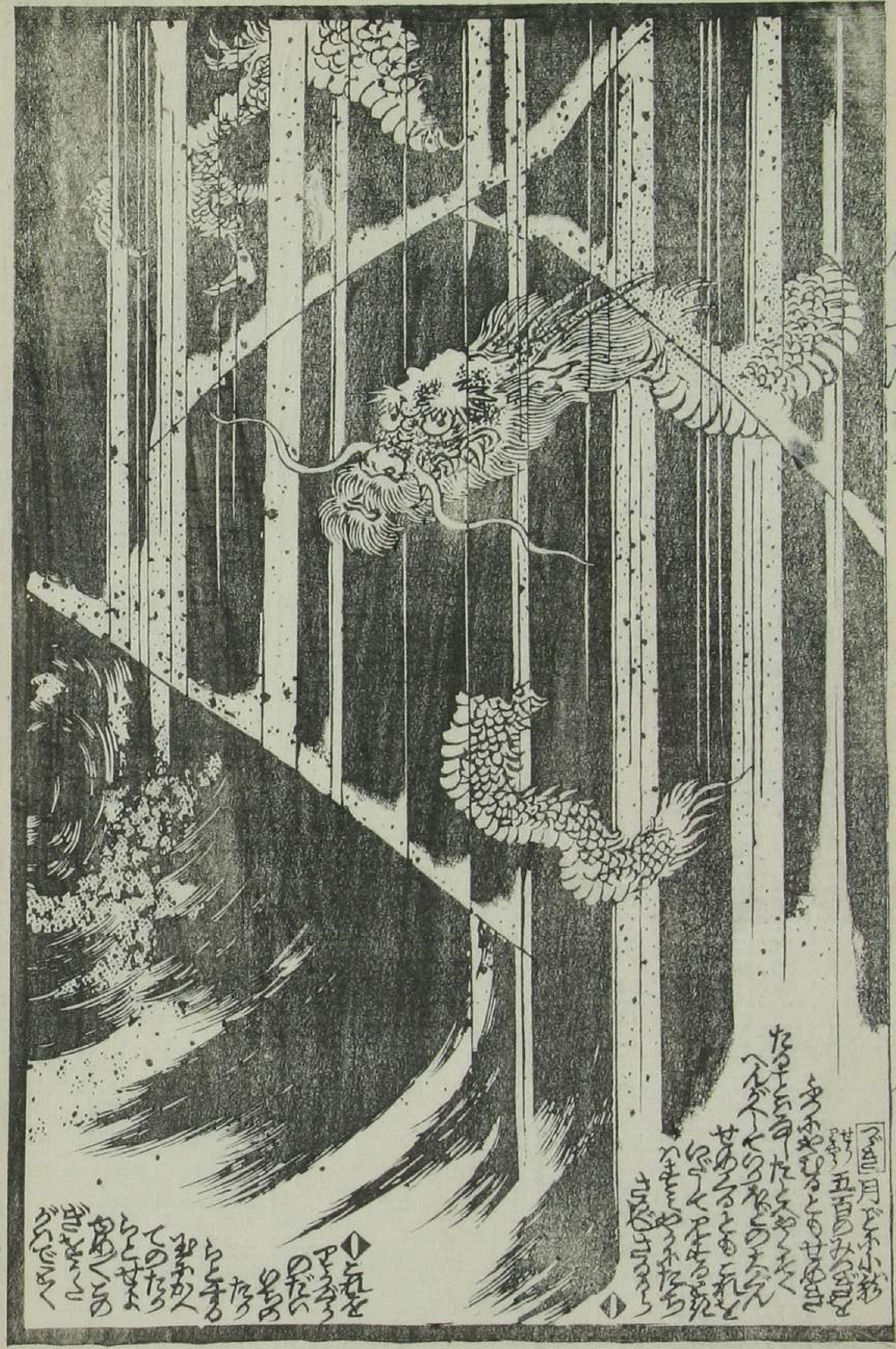

つゞき

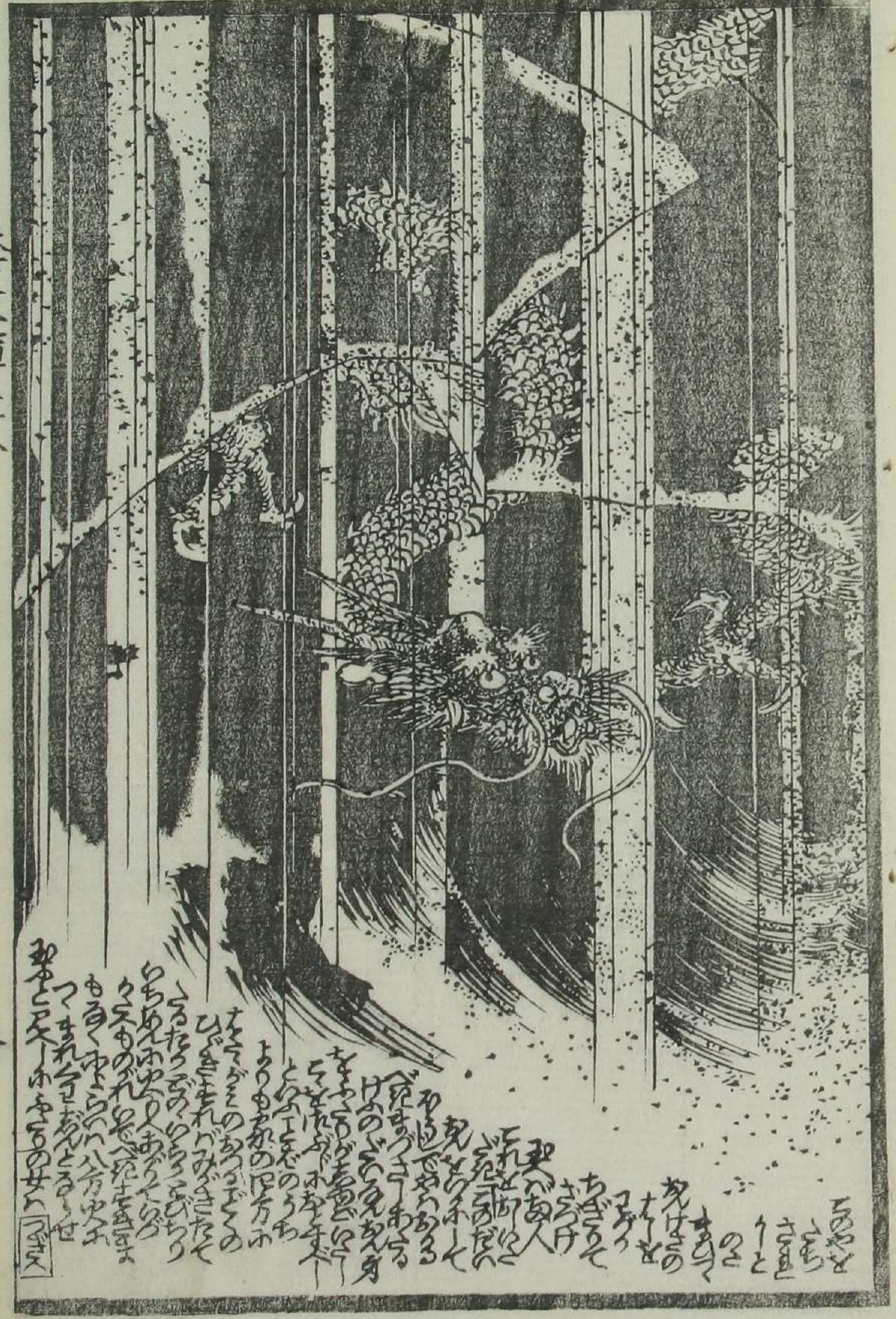
つぎ
六

加
那

波羅奈國の大施太子蛤貝をもて八万由旬の大海を汲干龍宮第一の寶如意宝珠を得る圖

沙伽羅龍王金翅鳥の軍に負て毎月五百の小龍を辨ふ

舎利弗


つゞき
五百のみつぎを

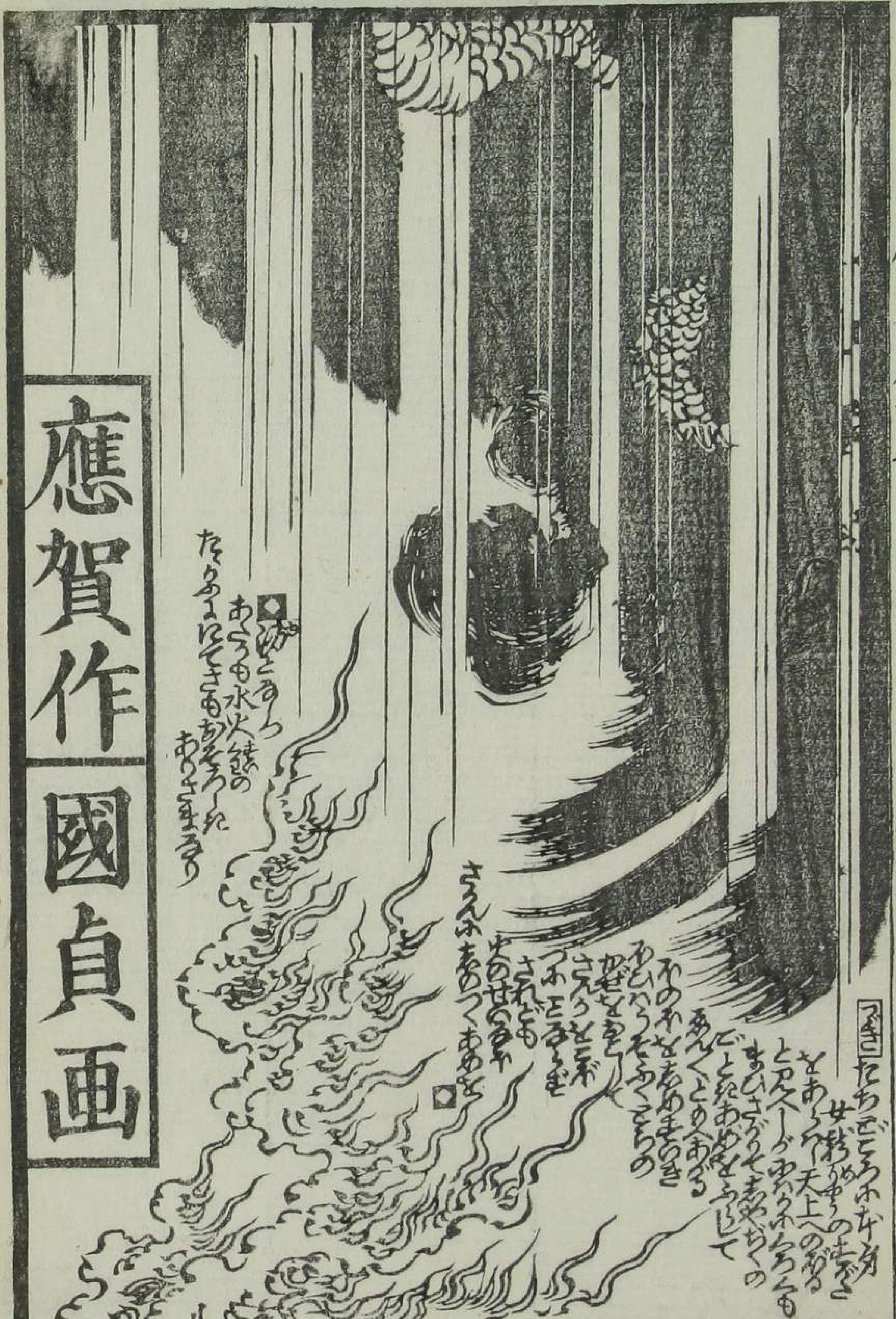

つゞき

上のつゞき　さるほどにふるびんらんへさ
その頃は女ばかりのつきのとふかくしてめ
おく中へうら[illegible]と人ぞえぬ
ふうふ[illegible]れにて[illegible]ぎとさ
[illegible]こそのこゝろ[illegible]ほどに
てゆ[illegible]のそ[illegible]ねてのぞ
その玉をと[illegible]ぢ[illegible]ぎとと
あざむき[illegible]るを
ねんごろにきこえるを
[illegible]
さりとゆ[illegible]のところとも
うちそこさんとぞやう
のおとてと[illegible]あやせ
[illegible]
[illegible]のほ方をとり
かと[illegible]
[illegible]
てたまの光
かのこゝろの
ふ[illegible]つて
まず[illegible]
八方[illegible]
でんぼう[illegible]
つのらせておのずからせきのうへきを山の①

①どくるまがかられざまぞのたへもけむりと[illegible]
つひにかのたからのへ[illegible]
んぞ[illegible]その[illegible]
[illegible]と

△つくづく[illegible]そうろう
[illegible]
[illegible]のおやをと
ひきうつして▨

▨ゆよら[illegible]
[illegible]
[illegible]
ーと
そのけん
ぶんのきさ
[illegible]
ゆよら[illegible]
[illegible]
の石[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
けむり[illegible]
かさ[illegible]
[illegible]
ゆよらへの
[illegible]
[illegible]そへて（次へ）



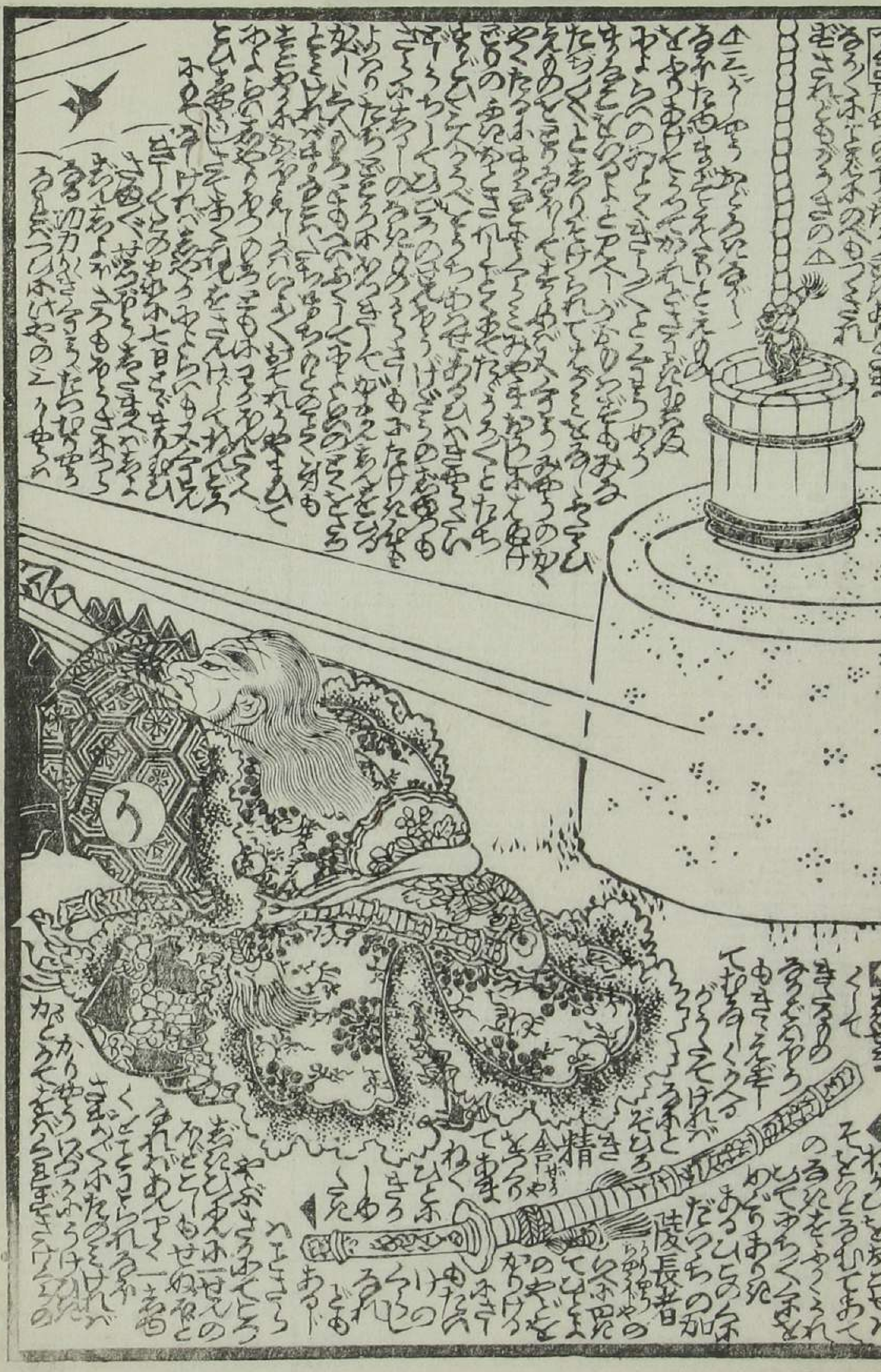
應賀作

國貞画

◇汝とても水火鏡の
たからにてきもおそろしき
ありさまなり

◇さんふまつてあやまる
[illegible]
されども
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つぎ　たちどころに女身
女[illegible]の[illegible]さ
をおこし天上への[illegible]
とんで[illegible]くも
まひあがりて[illegible]の
ごとくおもむきて
あくどのおぼる

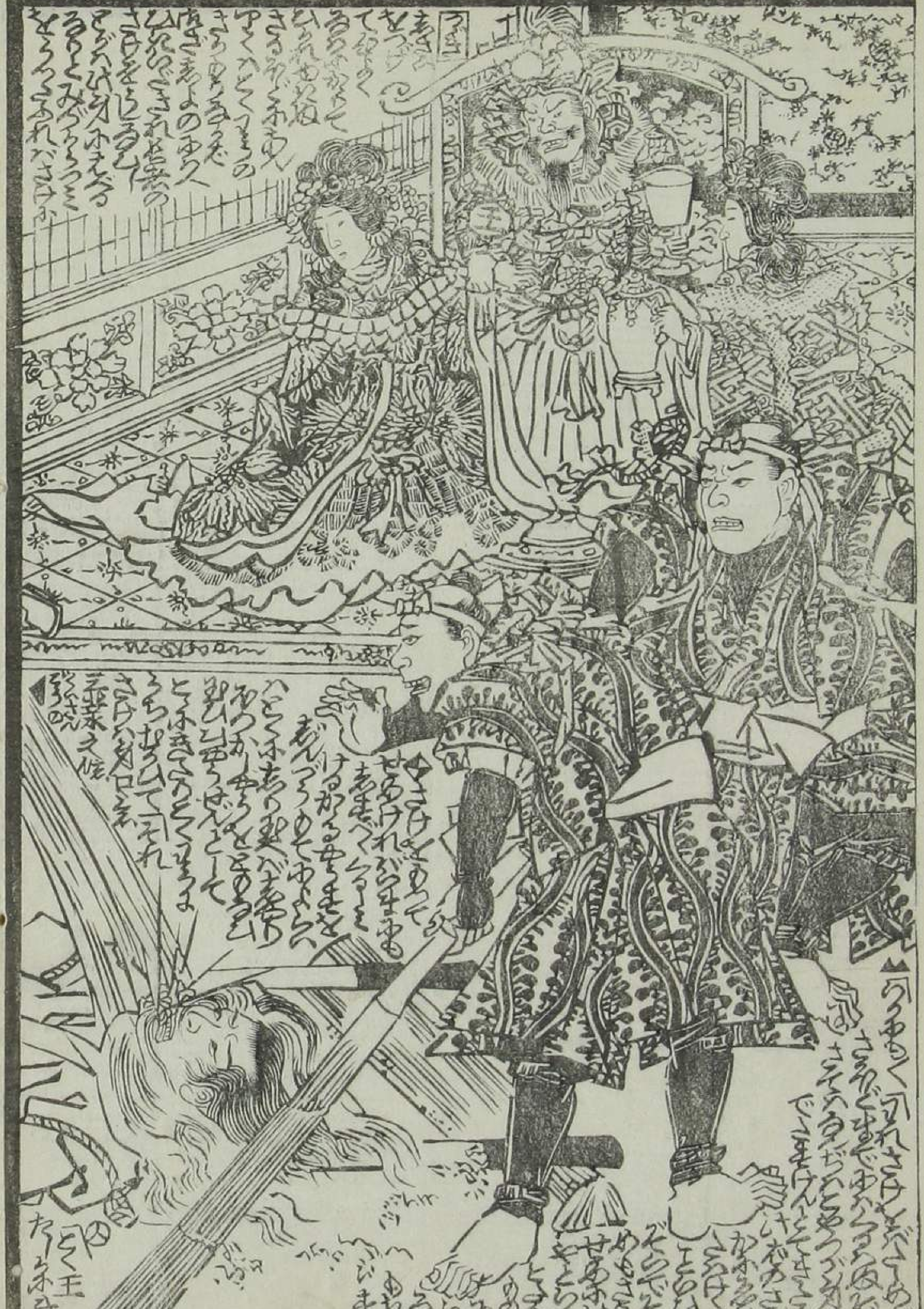


つゞき
女房の

次へ

御膳酒
長

安
妾



金銀蔵入帳
大福
萬覚
目

長

◻大伴通力だくみ[illegible]
あそびのおりから
[illegible]
御のこゝろ
山のおくに
おもひおそて
さまざまの
[illegible]
きゝつけるを
ひとつでのみ
ありて[illegible]
このこれ[illegible]に
のゆゑと
[illegible]
ゆてこれを
くらふ[illegible]の
女房けらいの
そろゆかかりて
それらにもつげ
むかくれば[illegible]
そのおきとて
さんざめ[illegible]の
たくめのみゐる
おかくしてらも
ひそかにかたく
ゆきかきさひとり

△それあわせをまろ
かさとりてまるさくる
たらのくらの君さまを
うちすてそれよりまづくらを
たちさりたちふめくまゑの

◎このかへてけがをさ
[illegible]
ゆくやまのくれにも
[illegible]
[illegible]
ひとくだいさんぞ
かりやうちまう[illegible]
とんちうへ
だんせを
に[illegible]
たれられ
とうく
やど[illegible]
うけに
[illegible]
たよ
の◎

あくまでくらみ
つくしてそくなる夜
さまの中で[illegible]
[illegible]
たれある
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
けそ十三
け[illegible]長
老のあの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
まをを△

まづくあへのそぎ長者の
家に[illegible]女房[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
みのゝのこゑきうまり◎

万亭應賀作

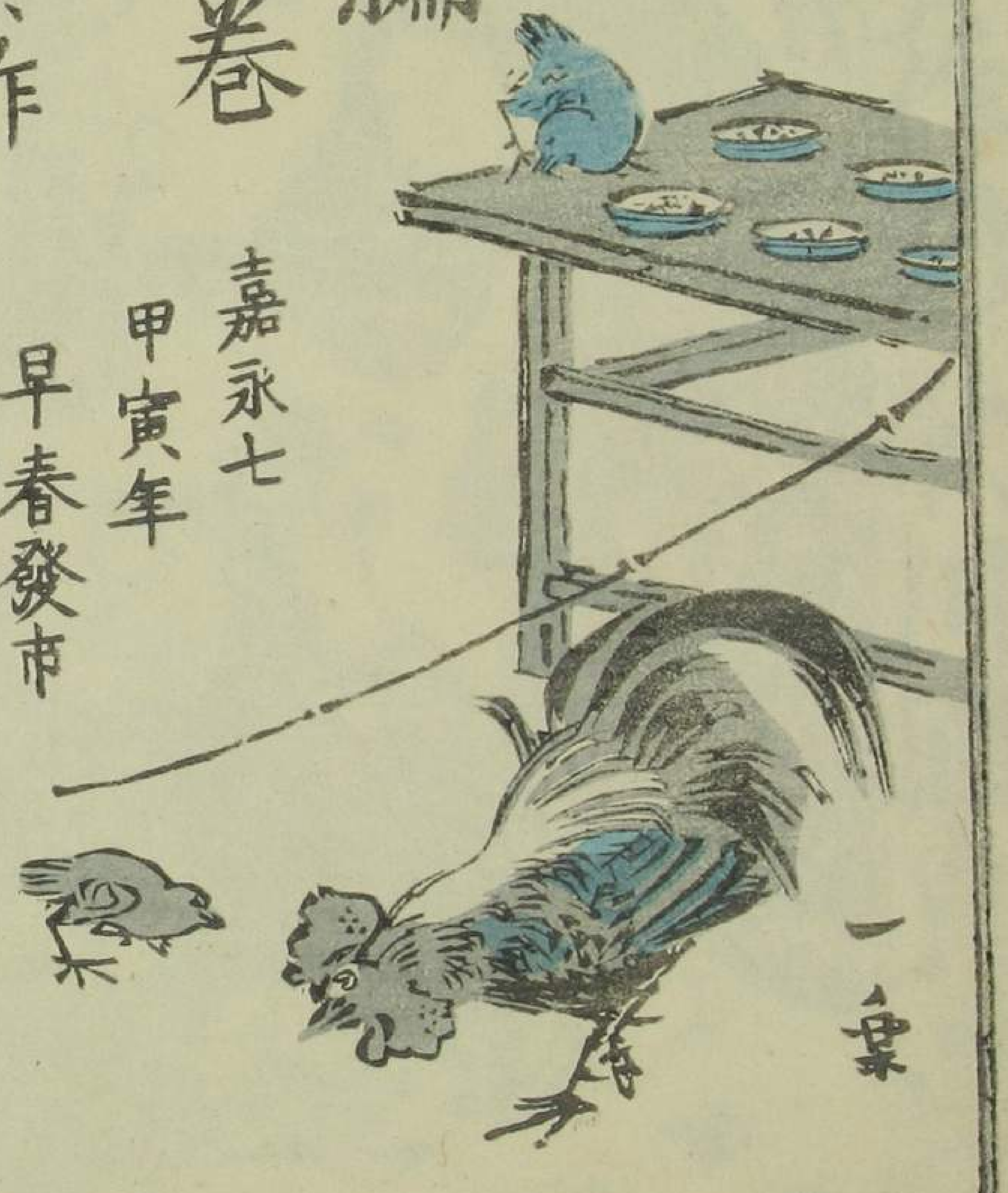
歌川國貞画

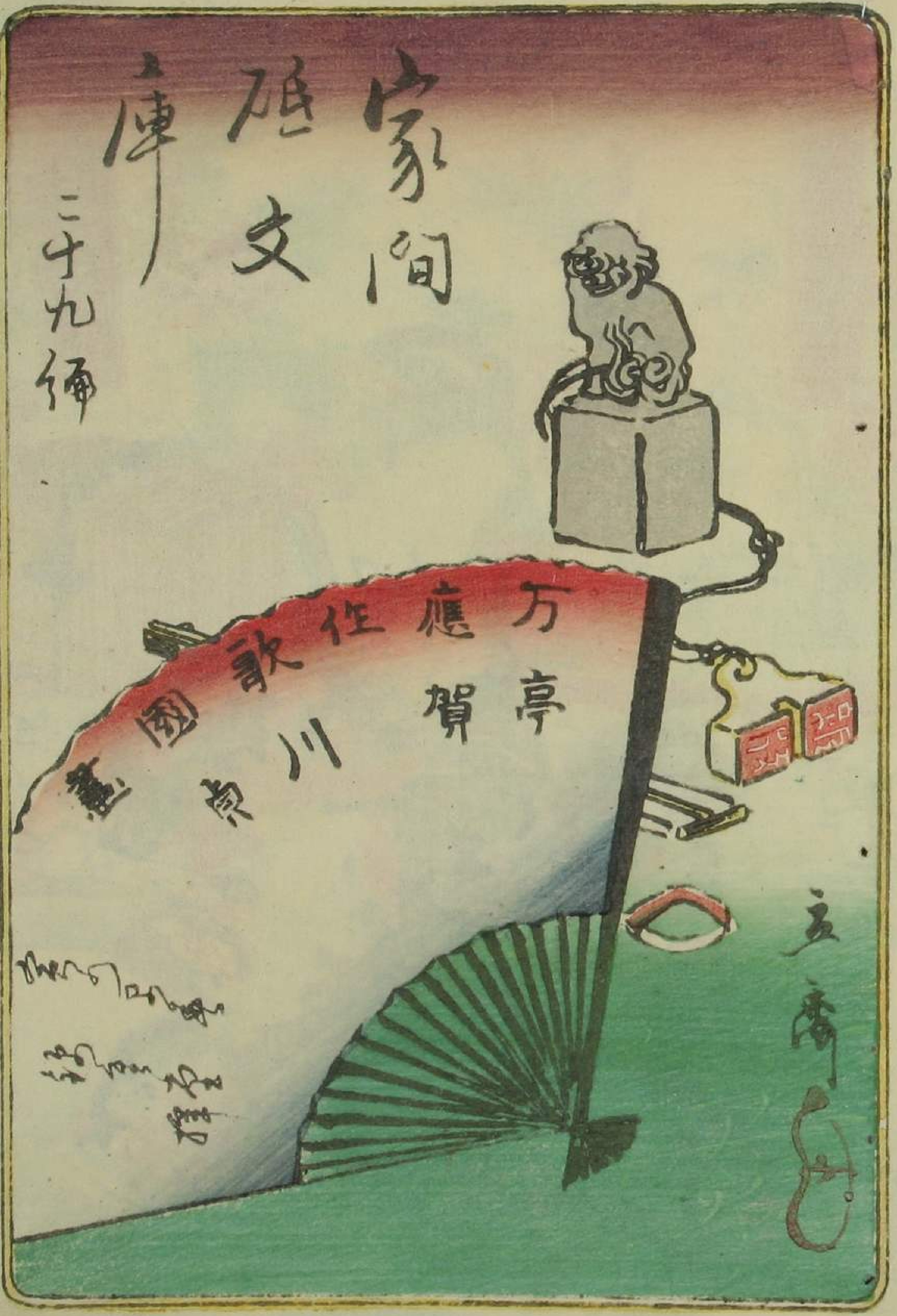
倭文庫
二拾九編
上之巻

万亭應賀作
歌川國貞画

嘉永七
甲寅年
早春發市

江戸人形町通
上州屋重藏板





万亭應賀作
歌川國貞画
上

倭文庫二拾九編
嘉永七年
甲寅新彫
外題豊国画
錦重堂版
下

一楽

寅の春新刊

釋迦八相倭文庫 二拾九編下の巻

應賀作

國貞画

錦重堂梓

釋迦八相倭文庫二拾九編之叙

此上冊ハ前編の讀續き目蓮の從弟なる摩偈國の伽陵長者兄が神通の不可思議ゆゑ大欲心を翻改し五百酒林を俄に毀て竹園精舎を建立し如来へ法施に献せしより攷下の巻ハ如来の御子に羅睺羅のあるハ皆知ども善星童子の在を知者の少けれバ此善星の来由によりて死如来前世に阿祇陀長者の婆を竊し報として五百世驢に生まるゝ説及び憍林九彼提栗を盗し牛の報をうけるに阿那律富樓那の功を混じて聊五戒の嚴重なるを女童子衆にさとしむる而已

嘉永七甲寅年
孟春吉旦發行

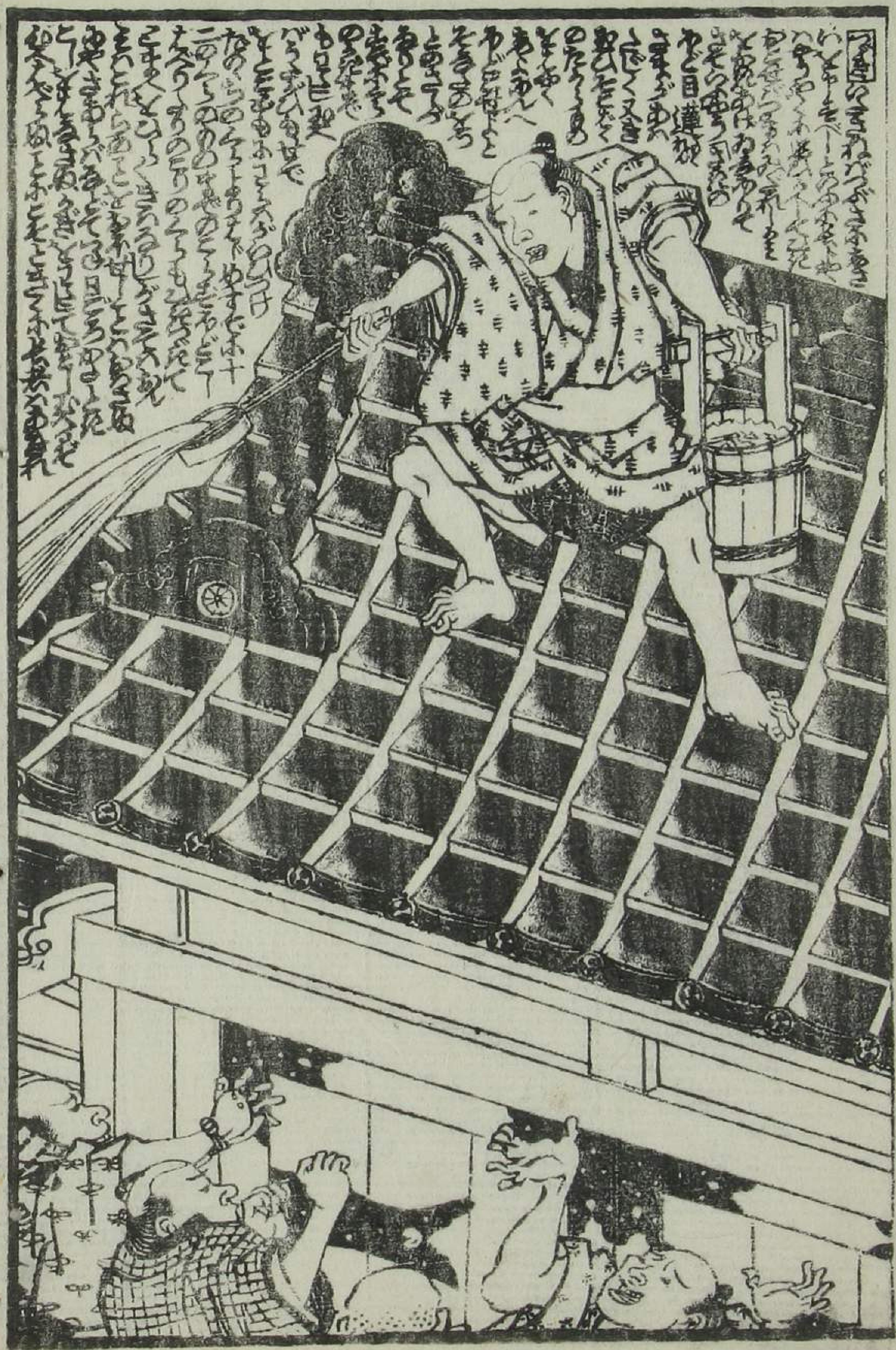
万亭應賀誌

摩偈國の住人目蓮の従弟迦陵長者如来え精舎を奉る是を竹園精舎と号く
大檀那迦陵夫婦

釈迦如来
舎利弗
目蓮

十大弟子の一個
天眼第一の阿那律
善星童子

悉達太子前世そ
阿私陀長者の妻を盗
五百世の間
黿の報ひ
善星
十大弟子の一人
説法第一の富留那
悉達太子の后妃鹿野女
夢て男子を産
これ善星童子なり



長
日

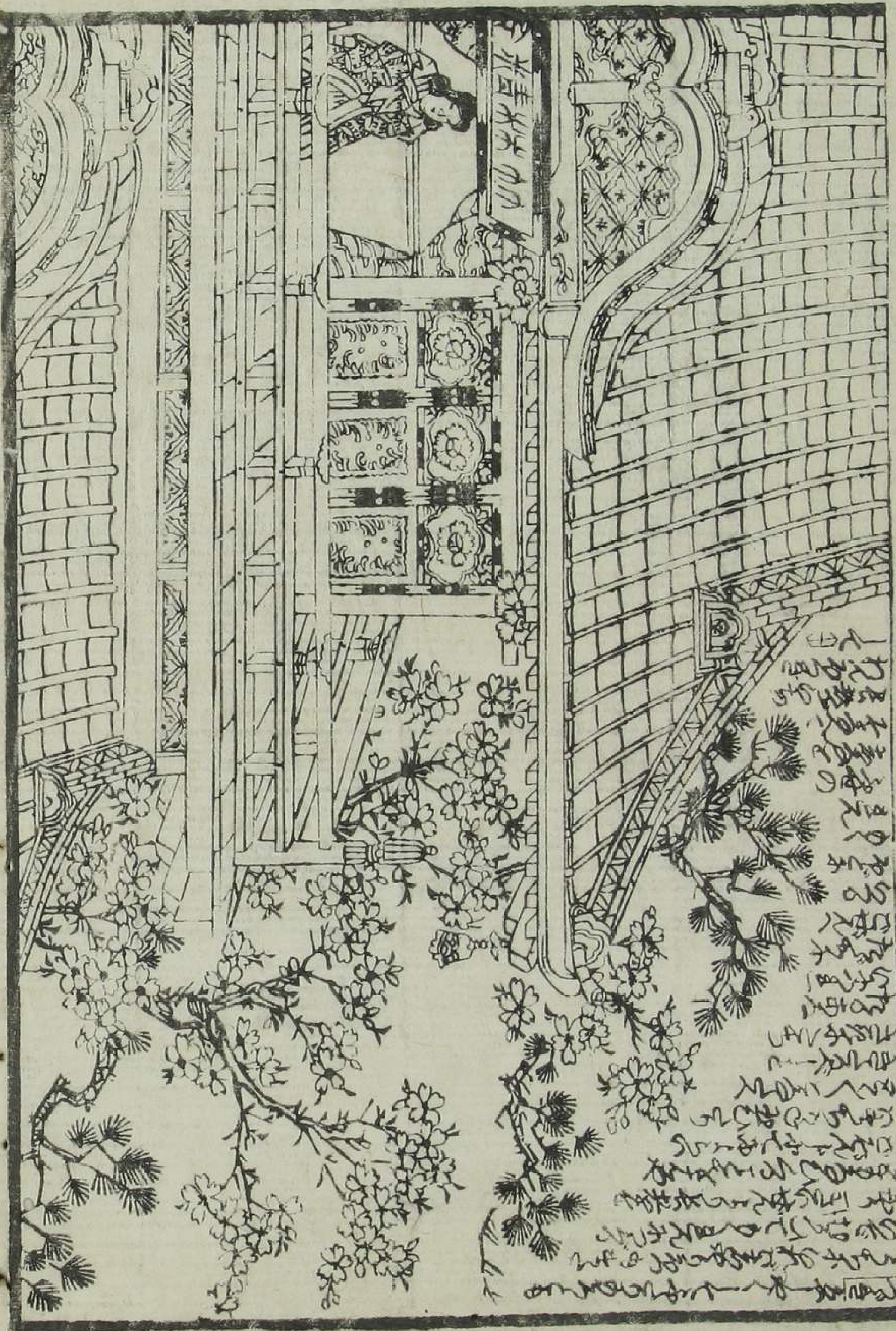
目
長

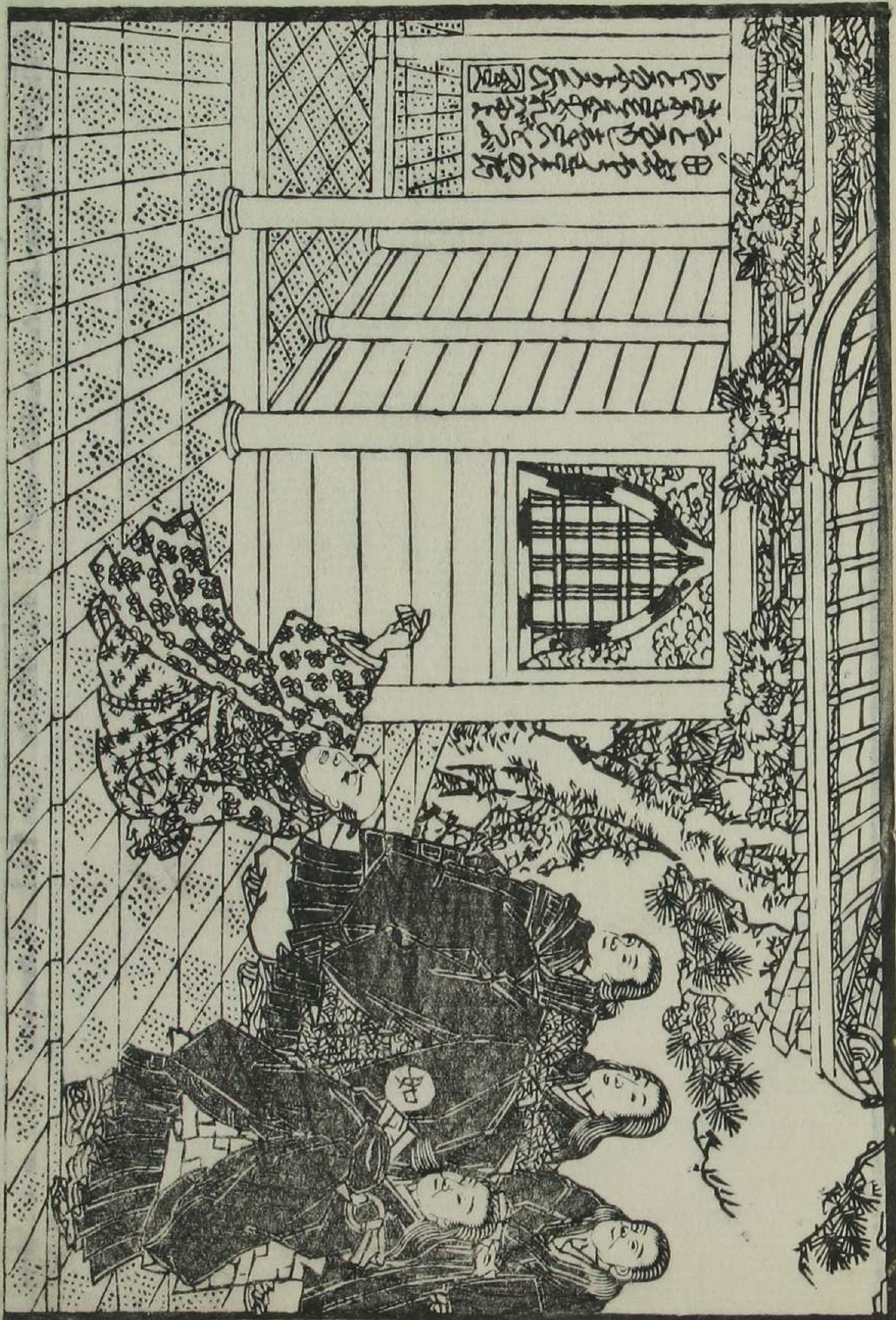
[illegible]

[illegible]

[illegible]

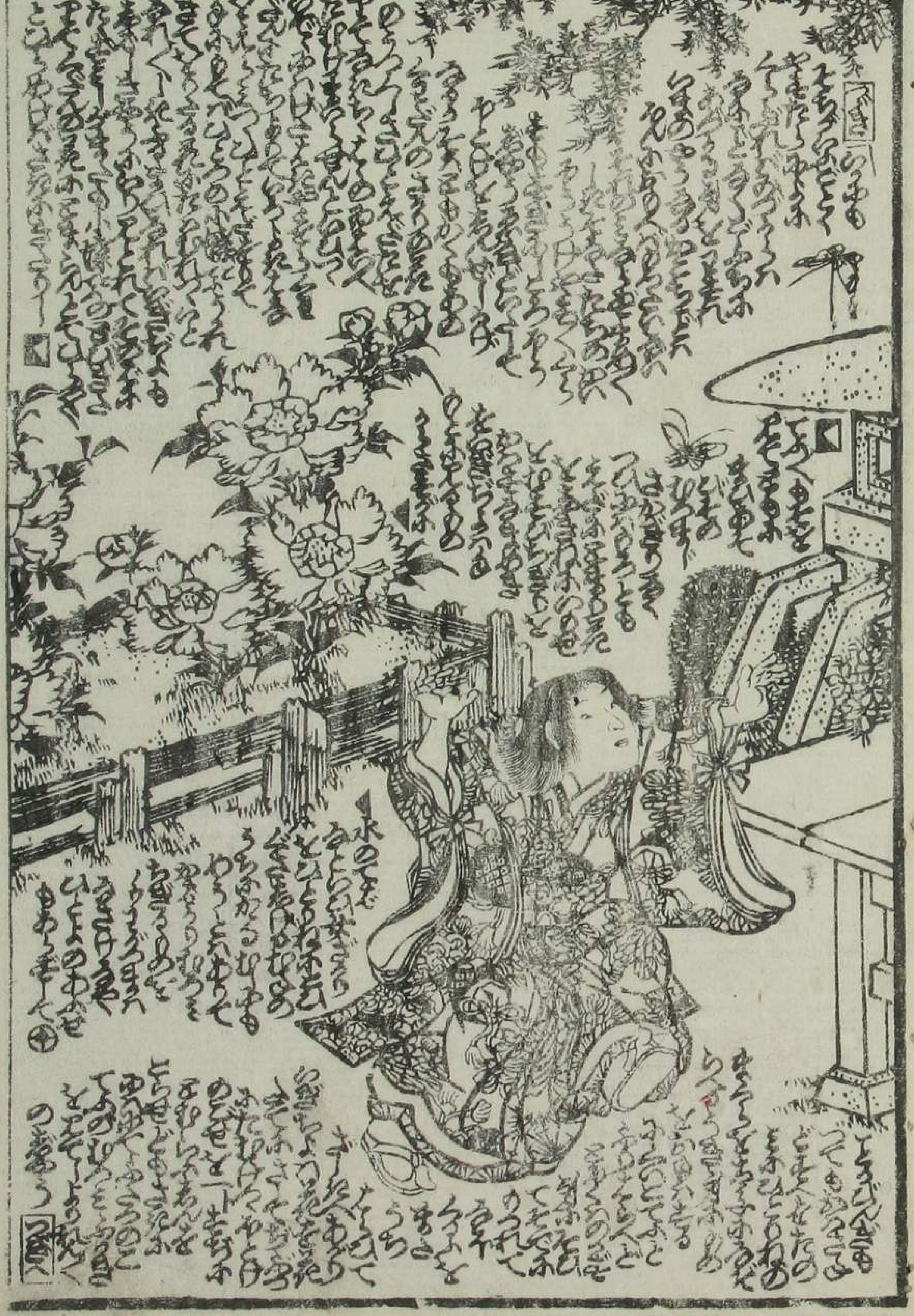
[illegible]

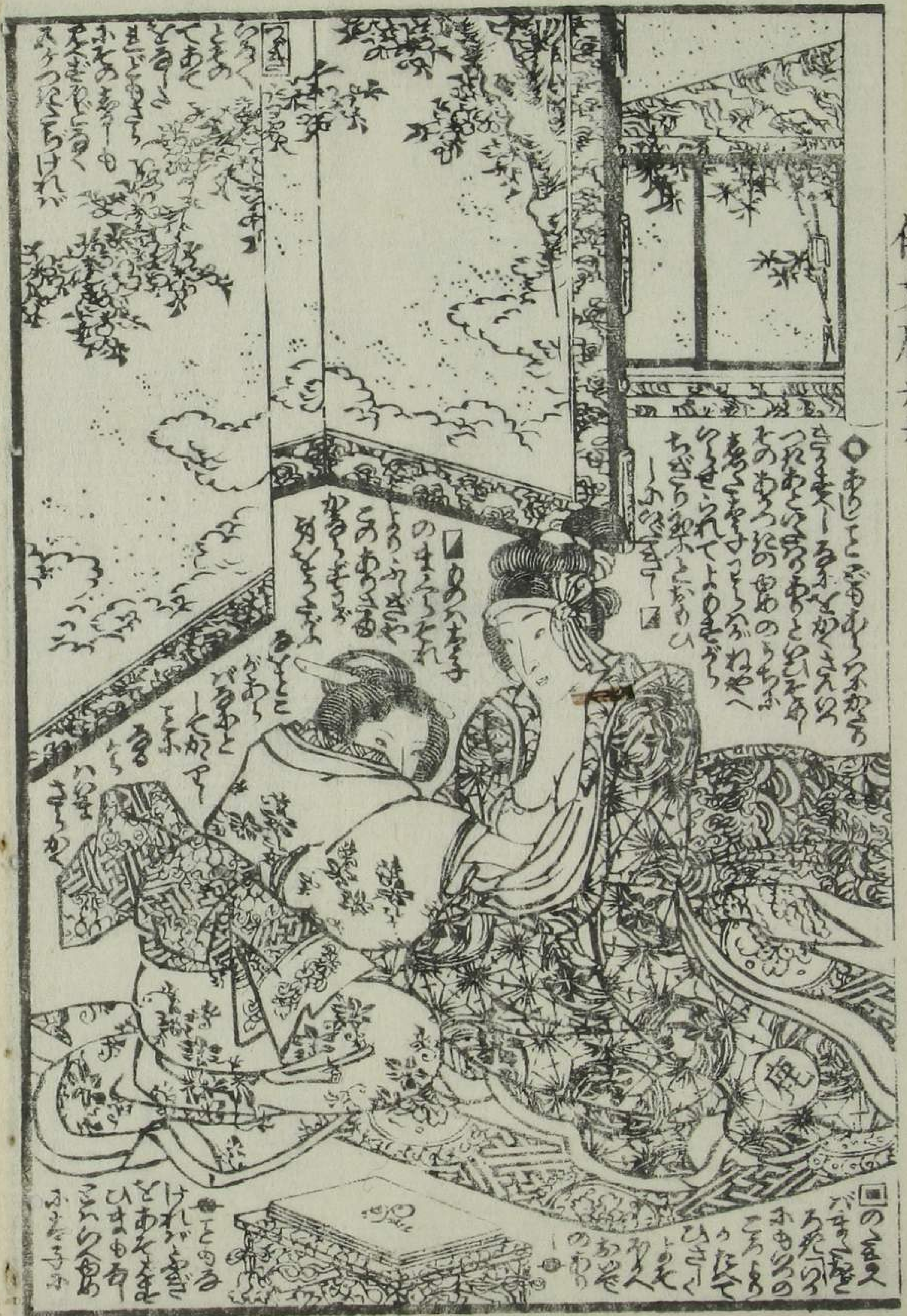




悉達太子の御一子
善星童子の由来

應賀作 國貞画





善
富

つゞき二 こゝへてかれこれすめ
二人どもみなくまゐらすると
いはれる由へせんさくもなく
とあるところをだいだいの
みくいのできうねきそや
あつそのの末つなり
うらんあは主人ふる事を
とよめひてそとのことを
たづね給ひたふる事
そこで国さんはよふの
ふしぎもあるのの名
先身の前世のつけの
でうしよるなと
きうこ由へさてくの
ちゑのそやーまつせ
由ある古くだぶへなをとらへ
んぺうとの末らうらん
よろこびて天下よくこそ
まさら給ふーはやそのたとを
天せよふーといはれてある
ゐるもののそくかの大鑑様の
わざとりくるさきにそをりて
あらくきかれどありかかのそんと
わらがしてふるさるへいかの
かのかのうちさんきうさんとも
たづね申へかものぶれも まち
ぬとのとのへがあるおせ
まるお主人にてまくぐらうぐ
ときてうらんへかやをとゑめ

ひとりのこどもまゐらせ
おひざもあるめの由来その
こゝのうらを出でそつく
いきつて不思ぎさけれ
うらんまづきあちらを
ぜひさそ井んじやうを
よびちかづけのそや
ゑんちはさでまれり
あのはやふまうきま
べーのねぶそそくどふ
いちーめのおもう
とおもんと言ひ
あくらおれぜんじやう
おめわざるまき
ゆび「ハイそのたと
いつもこゝてどうどの次ふ
うちくべてさる主居やらて
たべまーさーとのひつくめぐくまる
とやそうらんなるさをせーつてくぞ
て「ヤレむざんなることを立てらく
とらへどもかゝることをたのさらく
らへおつことをゆをたのさんのを
そのまゝふきる言ることおれが兄
まづきろうとのひきとらせてとおれがみなく
こてをまのぞくべーとそのよののを
ぞれざさけてうるべひとありをあそちの
づけ「ヨヤせんじやうたーらみさけよ
ひとをふらねさとさきてくろうるんちの
たらいぎちよーとぞまくさちよの

まことふるんちうくのー
たとへとべつぶ由あは
いのちのことをこのきー
ぶーもあるまーひ
かーやうんちうちま子の
子まらがおやのゆくを
らひさるそのうへも
るれもんじやうんそふ
そも立ちへ給ひへ
をとやぶりしあく
ゆび「いまよう
あまやーきひ
ちくらを
ねねばきく
かんどまいる
さをまりさく
さまこにそきもう
さるベーとまう
ずやいーそてその
さゝとまりぞいけ
ふるるそよめびで
いはけるゆう
「まんちたるよ
てくらぶく
とめぶり
たれとの
おうひ
あれが
まつひ

国ちがふ言ふのれ一さまうに
うそざてたそうさら立て言ひ
せふたがふなんどあとも甘くあち
やりそうがまれまでふでよければども
こいとふの人ども言ふあちらはのれを
たがふもゆきあうまにそるのあれ
あるいさまでめく生死しまの
なとぞまで一ゆえず
あるなく生ていおられば
もさいよふくせんざいと
まちへく此ところいか
あらうやどとこぞ言ふも
まそみるめの主人の
めーよそなそうらん
みなづうらたで
けれども ひとりと
あそらくうのき
やうまのあるのもるはまふ
さそこのらうへ来たしじゆうのこ
それおのまぐこうとへるおれがっする
まくそうわるるぞかしままそれ
どのひくしびれでしててれと
これなるえこよろびぞうそうへ
まうそれぬれどもかりとふいて
ゑるる出へせんぎのまくまうたけるが
まるうもあればあのきうつうらんあま
このひのを主あつめておふきまへせてきて
けるあやまきやうよきけれどもせんやう

いまよ
さつらい
主東
ざアノ
せんゆう
とひさかれてあり
やる主ふらうとしれど
かがき昔がせつさを
けくさーあらいひてよ
あれあ名だく方も
あまくまーひく
あけまひのあう
なうあーとせきえ
あもそられぜいてく
らへのやどのまーあを
ゆまとのひてくみまそとらせ
バそもてその言んだくて
まのかれがまあうとい
いそてあるから
つまありがたいとてまさ
さ思りと
ひとつくこ
めこぞをあへ
かふるくるなれ
とけいそれはに
めかぶかれ
ごとにまうのざし
コまへ分ころの
かなこまんがむかんで

「みさを」せうばいぐるしいれどそうはやらくおかさま～
あつくおかりよ年つまつるよねんどそうが
つうれまうげつぎ人たちのたばれやつをを
ひとりまぬとひてらけげのやう「うそちなちらえ
よそからのおかたくら兄を身ゆしらえ
呼のどうんずうおほ」よしそれはうれて
見れまでもそのはなあからうけくるらえ
よまうちとてをさたらさされよとおもいでき
そもかのさんとものかせーたら人る
[illegible]
もいわれぬてとみれ[illegible]まがさとてもまらする
うちられよりのことをさらそのそかくとろうで
よそすの兄にとやっと[illegible]かさきのそれかを
一きけしさもあて「そもそく[illegible]目より
あめいと[illegible]ちをためせとそきえんどあれまき
さえだきなきその
ひめぎみ えんさ
てんだう
のつたえる
そとうきの
郎やーうれん
母ぐるまのつうむせんの
さうへの[illegible]のかのきの
ひうむせらものうしらうきさう
あそへんるーより日のめや
まりきうかみきかはけんの
そうるへのくらよれひとのうち

おもうまれしてとのおとあるとと
どんどうあるままとかとかはなるの
あのびおやうぞうがひとともすもぞ
どんぞうのえおあもかすかか
ひとてのかべおう
せうお

これまでのつゆ
とんだうくるそんなる
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ふるさ[illegible]
くるそ「八テマもかしそおつさくなる
そのそとよれのつもの[illegible]
まずのもくの[illegible]
[illegible]
[illegible]
のうけてはおうの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あのおれぶれ[illegible]
ちし[illegible]
すぎちくふもちくる[illegible]

[illegible]

阿那律 … 天眼通 … [illegible]

阿祇陀 … [illegible]

万亭應賀作
歌川國貞画

歌川國貞画
万亭應賀作

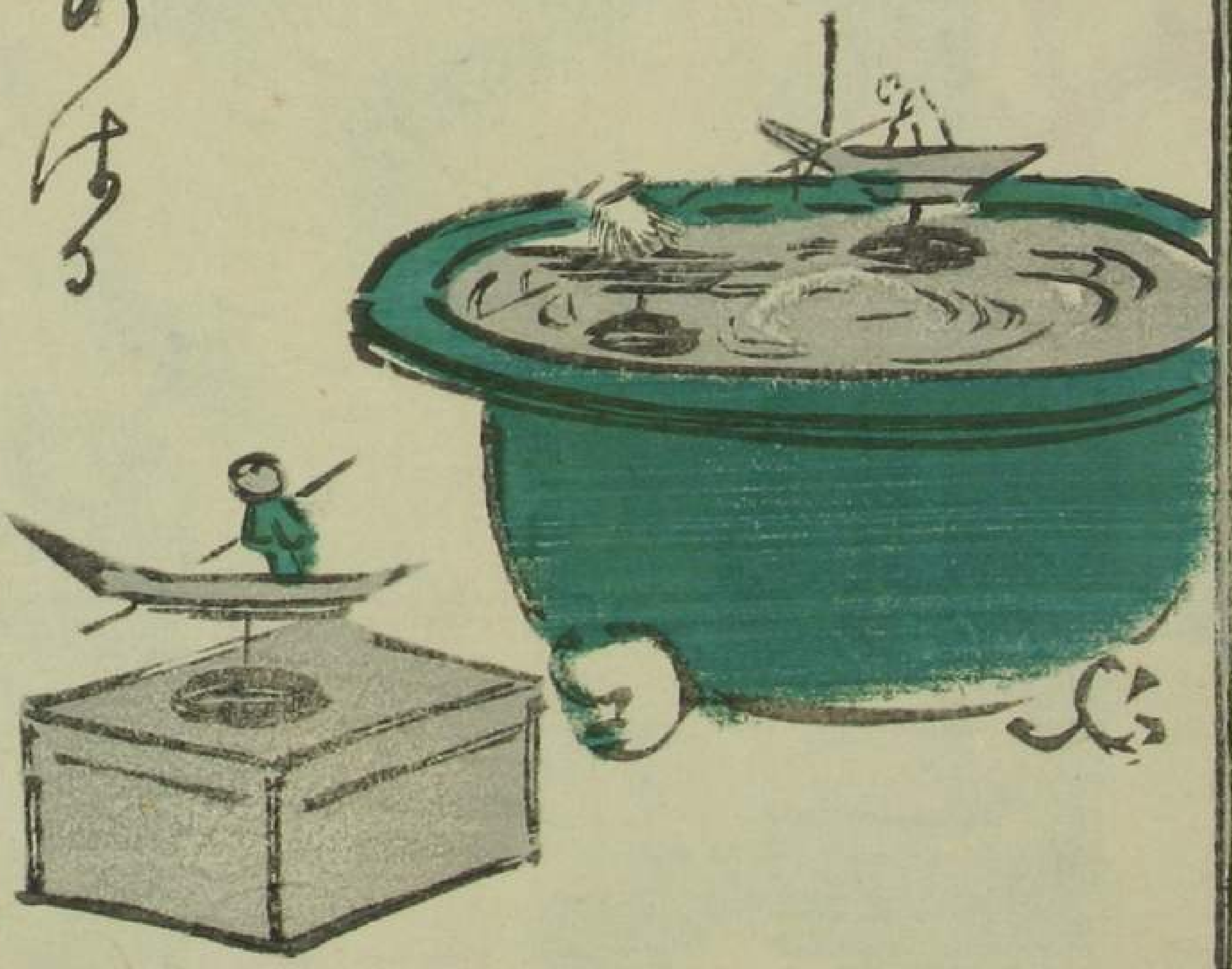
倭文庫三拾編
嘉永七年
甲寅新彫
上

應賀作
國貞画
錦重堂板
下

倭文庫 三拾編

應賀作 芳員画

寅のはる



釋迦八相倭文庫三拾編序

夫世界の万物ハ大極一元の氣を種として陰陽の二ツ也陰陽合して物を生ぜる有情と非情の二ツあり有情とハ人間畜類鳥類魚虫之非情ハ草木金石水火土と云是を真心無念なるが故米を蒔バ米を生じ麥の種より麥を生ず有情ハ有念なるが故ニ能変化ある中ニも人ハ情欲の厚きを以六道四生ニ変化して永く苦界を免れざるに是を深く憐ミ如来他心通宿命通の不可思議を顕し摩偈國王の夫人を度し邪師の欽婆羅を度し大迦葉ニ値偶し舎衛國ニいたりて世尊となるまでを録して此冊子の讀切とするものを

嘉永八乙卯年
孟陬吉辰發行

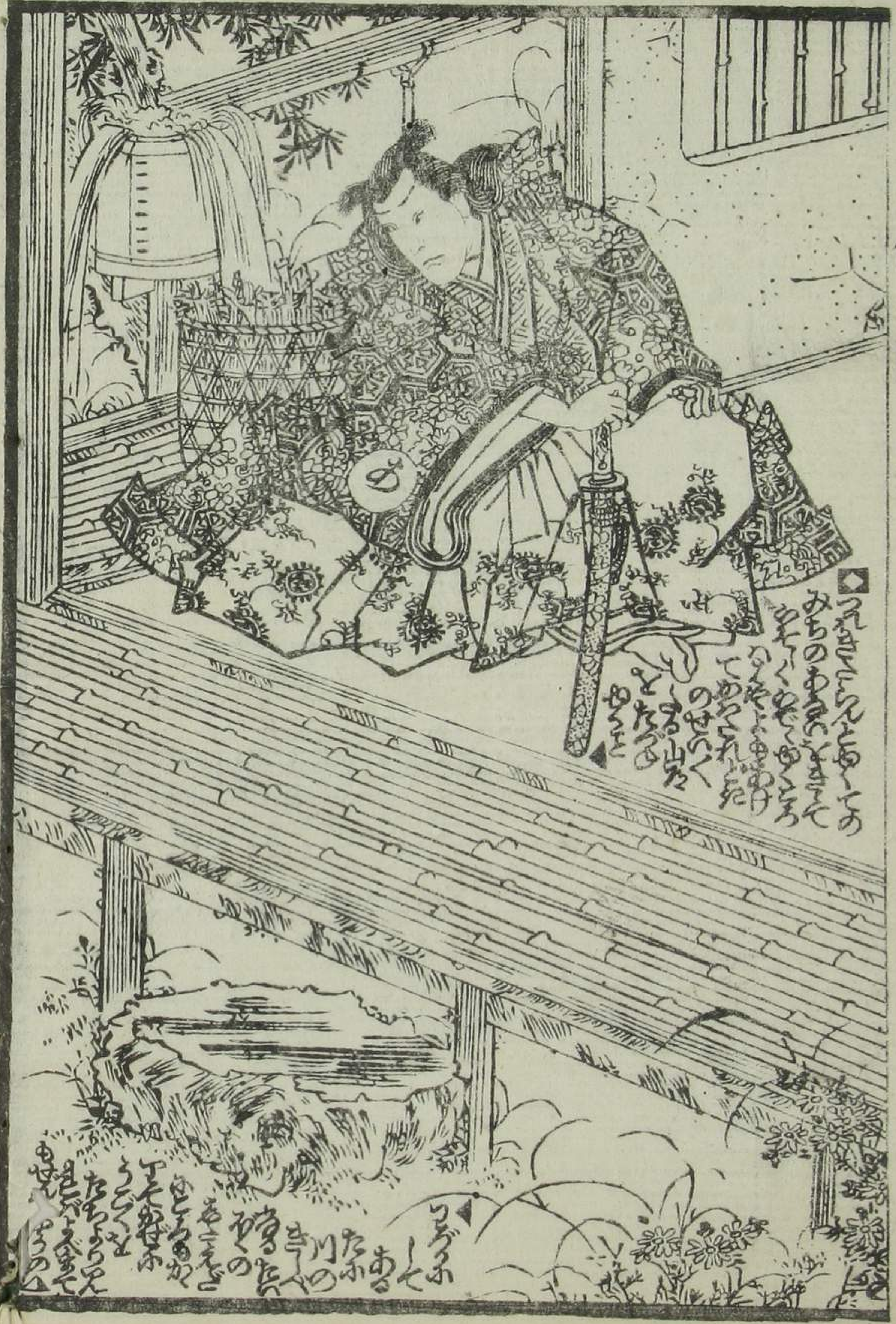
万亭應賀誌

釈迦如来
切利天
帝釈の法楽神
緊那羅王
七金山の峯に
天女
舎利弗

さて釈迦如来に對し
天楽を奏せ
此時舎利弗
節をとつて舞
帝釈天王
四天王
邪法の司阿闍羅翅舎
欽婆羅の父十方山の
緊那羅王
琴を弾る

△如来の正法を滅し
舎利弗
目連を
亡さんと企

緊婆羅の
孃摩那耆
法楽神緊那
羅王の長子
邪師阿闍羅翅舎
緊婆羅△

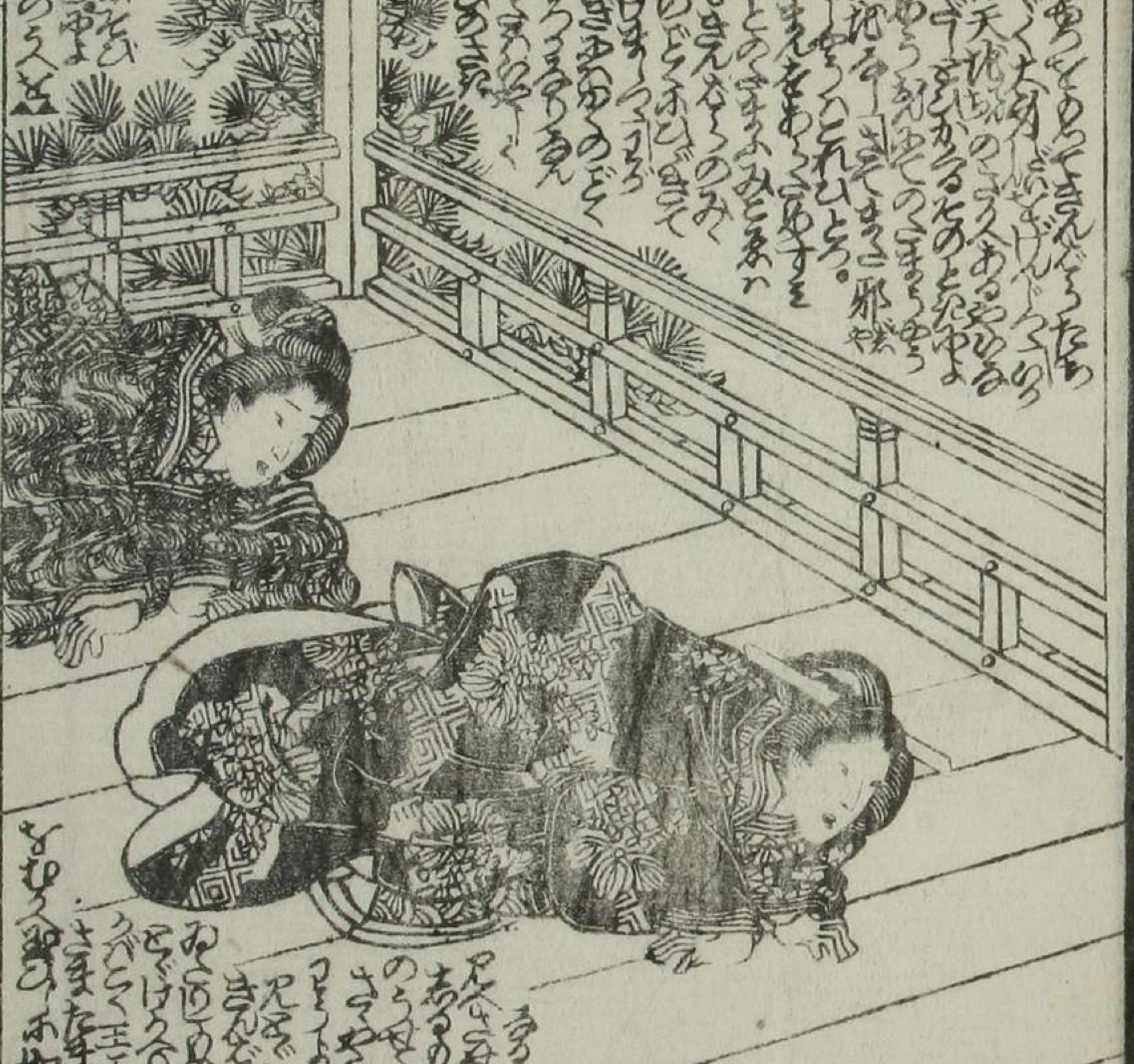


二

「つゞき」どれほどいかにそのかたをとらへよう〳〵とよろこびのなかにも かの女のちからにはかなはねばこそ イデ わらはゝともかくもわがるかのけんぞくのおそれ あ〳〵けれんすゞつはつべーとおーすめてかへつて きゝてあらうかとさもうおそれかゝく王もぜひなく まづ如来のゝたまふ上はとつゝけられしに そのぎのぞむところとおれはさてはおそれ かつておりくるまゝべーとあまされ けるとききんなりよろこび 千わうの御ちを 一日に◆

◆すゝめ てちくすん おほうつれかへらさ わけさるれはいかよらい わけかるるほけの一まこ せうちろうぞゆそてあれ でもまのとりをつくりさえけれも あゆくおそく あくるまてもあるてんじる そのみうへは人にもまさるきえぞうる▲

▲あれこれをれば女まつりのよわらきたんのちにまちむかひをぐくまへ大ふしんをげんし ふねんまつらせうに天沢のひつろへあらか やそが三の女せりやかゞるものとたや のいびとうのぼれりかうがへつてまさ一邪 「さとりをつ天沢ぞ」まつさまと まさ正ちやわの木 「恐ろ女」しやつれもとこ あらいさんけたらがまえしをあかさおすて やかさんけやせよとのゝてのまたこれあかまれ小さうやうされどもさえどくのゝみ なちりかへつのしのどもかしてこ ふ女でうしてもろかはつまり つてろ けんぞうのふつきまくかくのごとく の大ふしんも「やつかさをて一寸るん おづくてなそのきの女のそをてあ もこてのとりのせひのさえ よくくふるうしと のちまのとき つきふだら つくしきいて ずとれそれども いうおはろくい あらしまかうどや もうくからの首まつへ 八万四旬ぜ数多はるそび てつる大ふしとるかしまよ らんのひとりのゆびのうへに▲



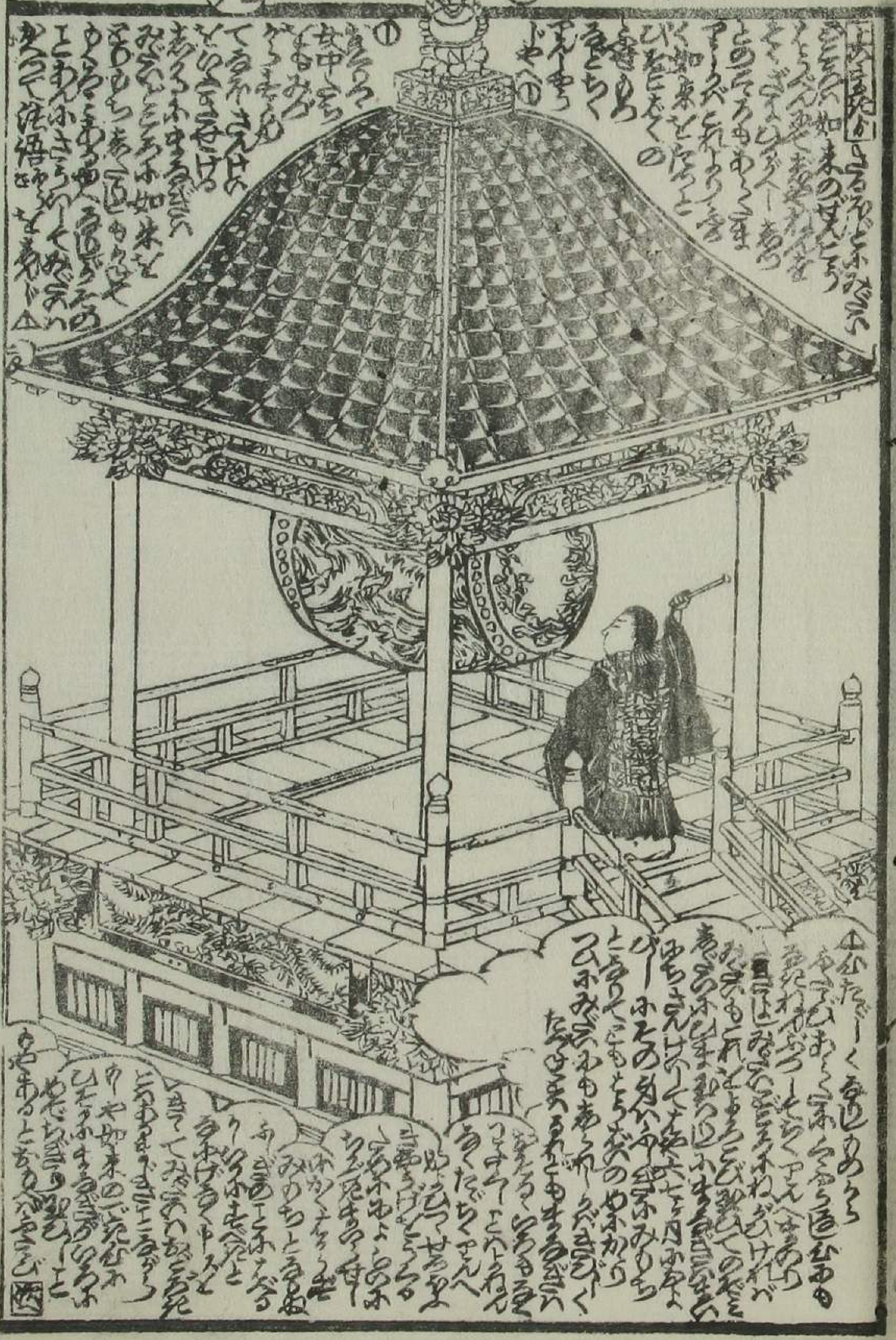
▲きまつて その身のかたちを ふるよりひとまと あきされがたく ひらくいうくのこる へまつままとすくさを けしてとなかはける それゆからいへたりよう べしのお善つれそ たゆんの目かれと あることをいのつのすべろふ 凡そ二千数へ万かるにならざさ あるかのろくたくきんぞうら のち世へるまでぞかりとものを さしやあらけるさまるやうでふしく つとよりけふの里にまをも 凡そけのみてかいまうるなり きんなつとさまぶきさうて みとろのめとをわりさまを見 とくけらろのつまふのつとへ ちらくて王とまてうとひでとる さまたるまのとうをつくも如来 まもつて如来のむさつく〈國貞〉

みぐるへは[illegible]そぞろに[illegible]ひざをすゝめて[illegible]如来[illegible] [illegible]

[illegible]

如来さる[illegible]女中[illegible] [illegible]ひとへ如来[illegible] [illegible]如来[illegible]

[illegible]



[illegible]

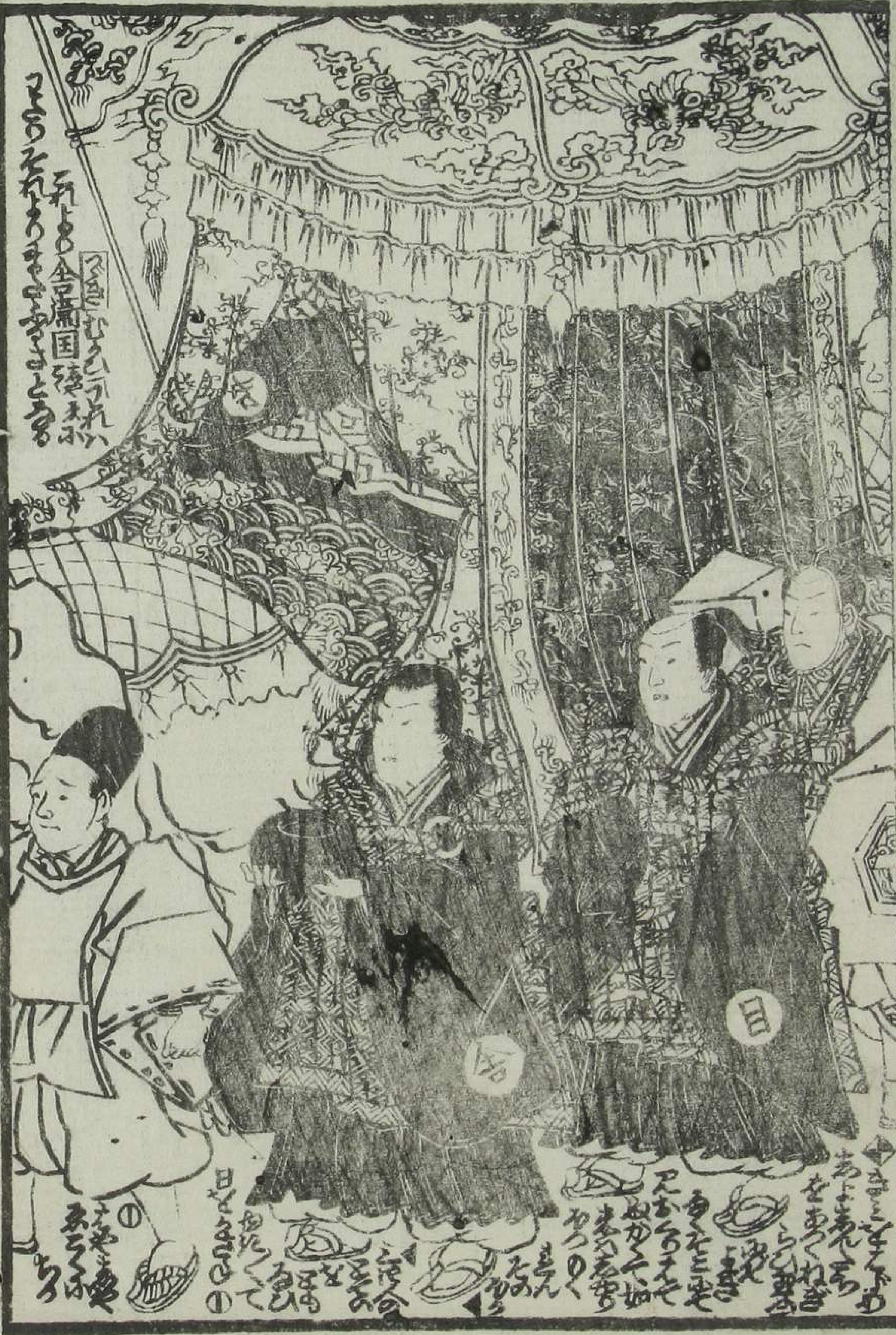
つゞき [illegible] 如来 [illegible]

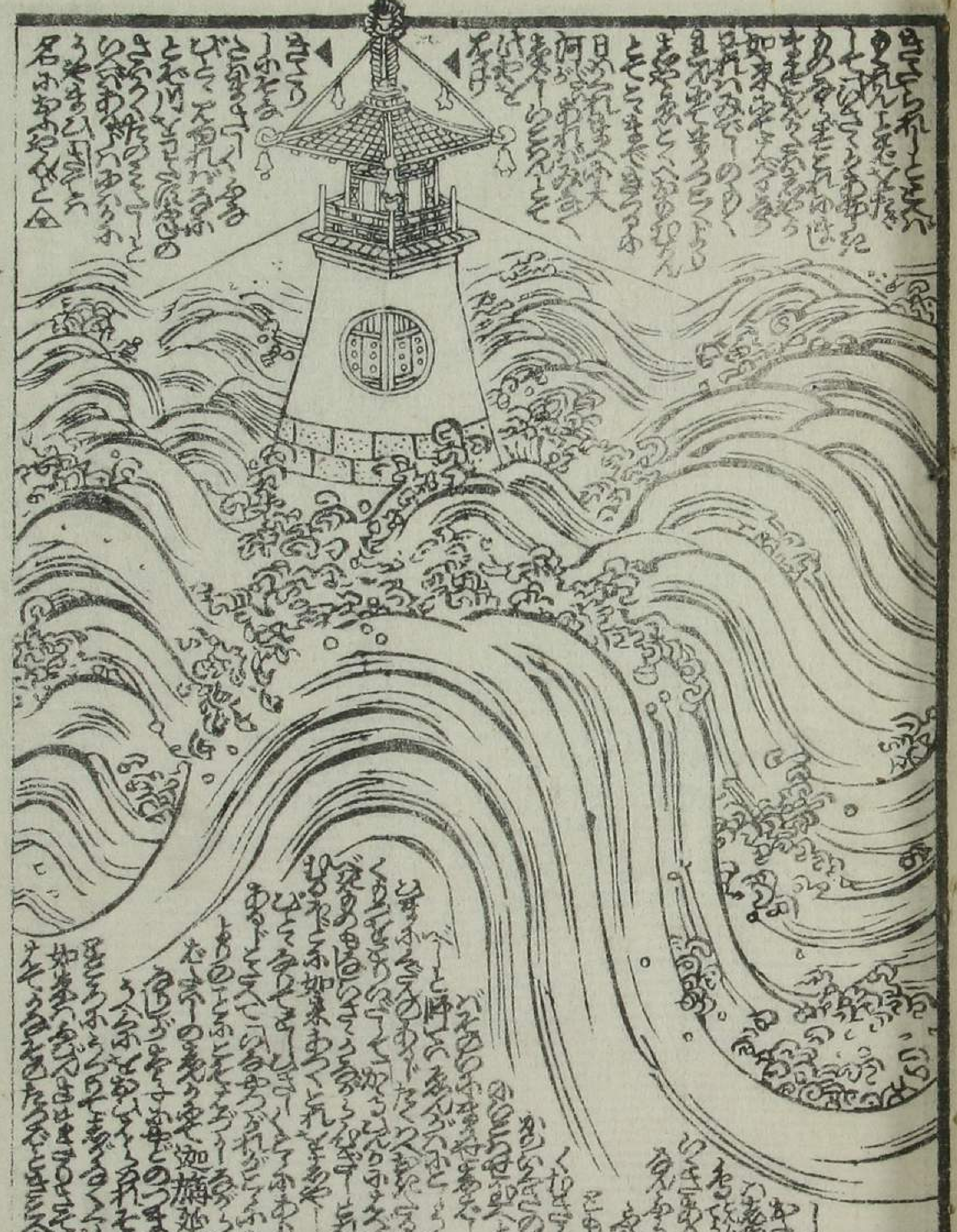
應賀作

國貞画

[illegible]

[illegible] 王宮 [illegible] 如来 [illegible] 白ざうの [illegible] 王へ [illegible]

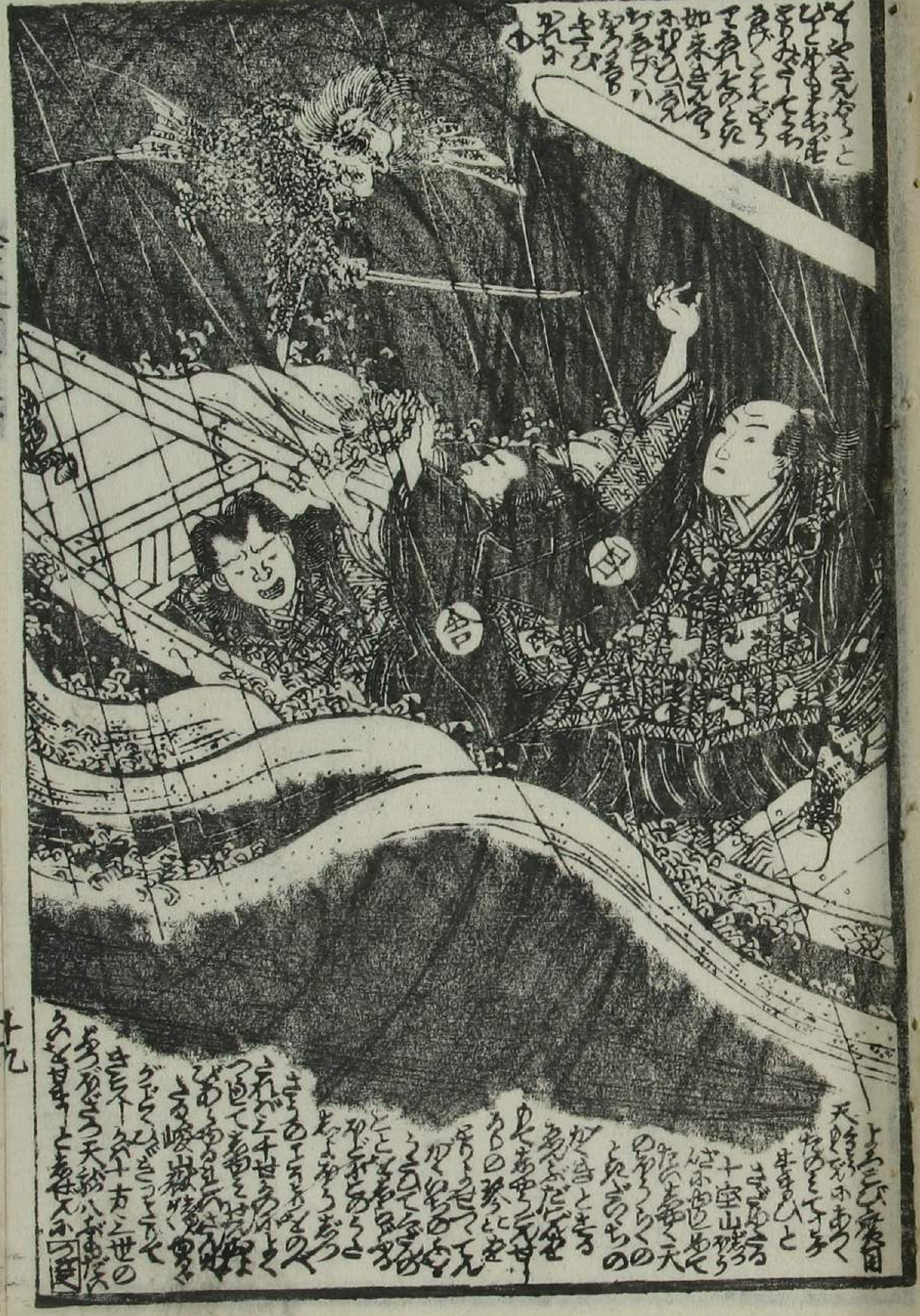




天王

天王

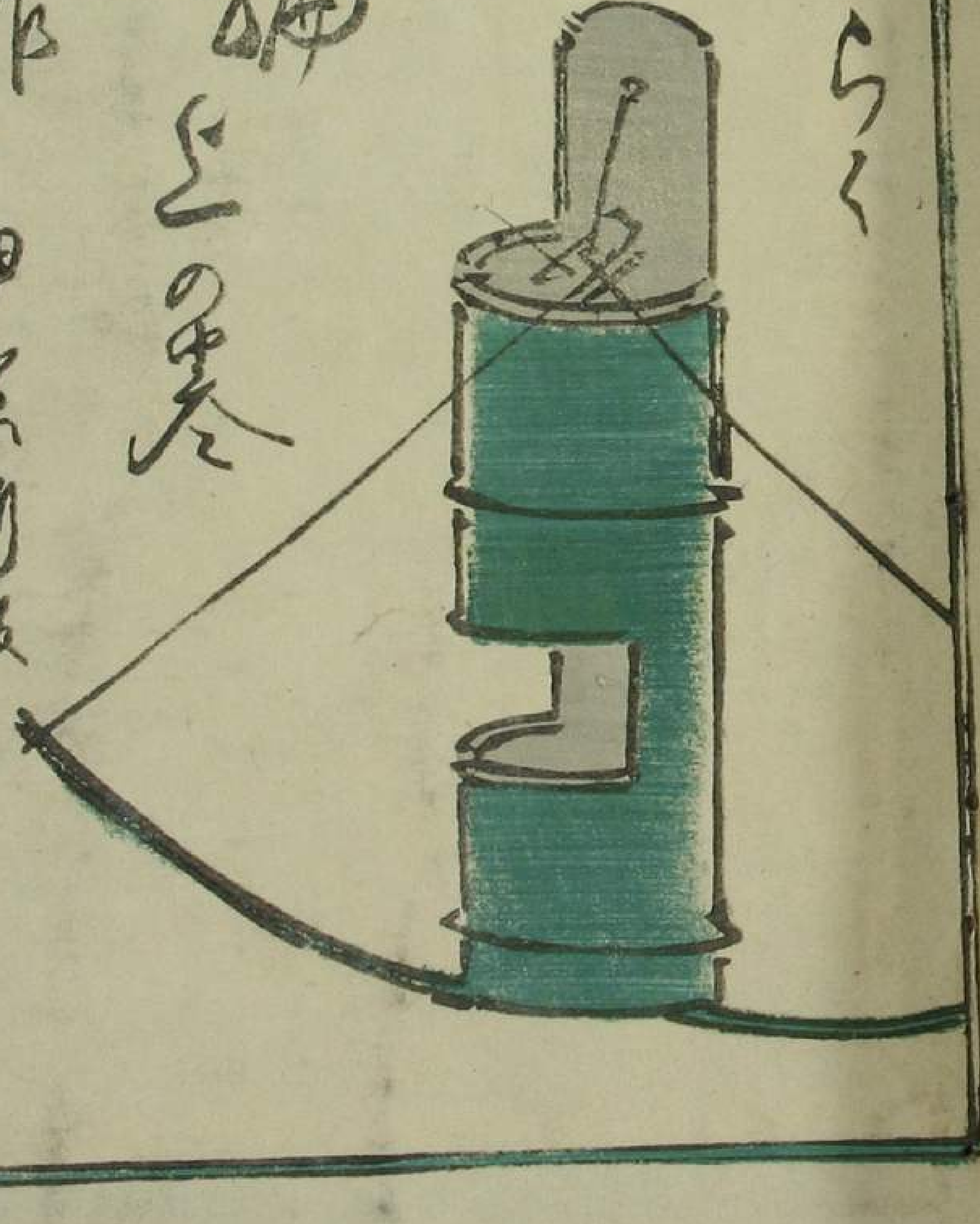
天王



多聞天

倭[illegible]文庫
三十編
上の巻

らく



万亭應賀作
歌川国貞画

甲寅新板

人形町通
上州屋重蔵梓

万亭應賀作
一寿斎國貞画

「つゞき」[illegible]とこゝろ[illegible]おもひしと
[illegible]のがるゝ[illegible]如来ハ
[illegible]よりもかく
[illegible]二ぎやう
[illegible]
[illegible]十方の
[illegible]
[illegible]如来の
[illegible]如来へとの
[illegible]

「⊿」こゝにおいて
名をも摩訶かせう
とぞよばれけるとぞ[illegible]
かゝる[illegible]ものある
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ひと〴〵[illegible]

「⊗」それよりのち如来
[illegible]
のどかのそ[illegible]
とのか[illegible]
ふびん[illegible]
ありてしん
あとの[illegible]
[illegible]
[illegible]
摩訶かせうの
二字ハ
[illegible]目の
[illegible]